

指揮班



中隊長



消防司令長
原田 敏明

1

3度目の警防技術練成会最優秀署となります。今的心境を教えてください。

2

「勝因」はやっぱり何だったと思いますか？

3

中隊長として、特に気にかけていたこと、また、中隊をまとめるためにどのような努力をされましたか？

訓練の雰囲気づくりを大事にしました。隊員達からの提案は全て受け入れました。私を含めて出場隊員一人ひとりが真剣に取り組むことで、周囲の皆の支援が得られ、全員参加で訓練することができました。隊員の怪我や体調不良など、体調管理には特に注意していました。前任の思いを引き継ぎ、隊員を選抜したので、必ず全員で出場することが私の役目だと思っていました。

4 中隊長にとって「最優秀」とは？

25署の中で一番活気に溢れ、まとまりのある消防署の代名詞だと思います。

情報担当



消防司令補
宮脇 雄嗣

通信担当



消防士長
奥田 崇司

1 情報担当として、気にかけていたこと、訓練で得られたものを教えてください。

消火隊の中立的な立場として、お互いの意見等を積極的に代弁するよう心がけて訓練に臨んだことで、出場メンバーだけではない城東全体のチームワーク（一体感）が得られたと感じています。

2 最優秀署を掴み取れるのではと感じたタイミングはありましたか？

1回目の事前訓練後、多数の署から操法の情報提供を求められたときです。



警防技術練成会
最優秀署に
きました
— 城東消防署 —

20年ぶり3度目の最優秀署に!!

令和7年6月3日、大阪市高度専門教育訓練センターで実施された、令和7年度警防技術練成会において城東消防署が最優秀署となりました。

最優秀署になれた今だからこそ言える本音は？
出場隊員はどんな気持ちだったのでしょうか。
最優秀署の皆さんに伺いました。



直近隊



1 最優秀署となった今の気持ちと心がけていたことを教えてください。

小隊長
消防司令補
古賀 稔明

最高な気分です。ただ、目標達成ではなく、通過点と思い、立ち止まらず、次なる目標に向けて動き出します！限られた時間の中で、効率的な訓練を考え、訓練後は必ず振り返り、次の訓練の目標を考えながら取り組むことを心がけていました。

2 チームを作り上げるために意識したこと、また「仲間との絆」をどのように感じていますか？

「1秒でも早く消火する事」をチームとして目標に、「先輩後輩関係なく本音で語り合える環境！」を意識して訓練しました。心が折れそうになんて、仲間を想うからこそ最後まで走り抜けました。勝利の秘訣は『絆！』です。



機関員
消防士長 善野 利規



隊員
消防士 原 壱成



隊員
消防士 谷浦 雄大

1 機関員として誰にも負けないことがありますか？

直近機関員に必要な状況の変化に対する一瞬の判断力と繊細なポンプ操作技術です。

2 最も苦労したことは何ですか？

圧力を調整する細かい作業の際に、使用車両の特性を理解することに時間がかかったこと。

1 日々の訓練の中で壁にぶつかった場面は？

はしご固定とホース固定が苦労しました。それでも、1回1回を集中して訓練することで、本番も普段通りのことができ、壁を乗り越えられたと思います。

2 練成会の訓練を日常業務にどう活かしますか？

「訓練をする前の準備の大変さ」がわかつたので、普段の業務でも準備を万全に取り組んでいきます。

1 隊員が「消防士」2名でしたら、不安はありましたか？

経験が少ないとからの不安はありました。しかし、先輩消防士と助け合いながら訓練できたことで、安定したタイムを出せるようになりました。

2 署員や家族へ伝えたい言葉はありますか？

2ヶ月間の温かく、時には厳しいご支援とご協力のおかげで成長することができました。ありがとうございました。

中継隊



1 年齢や階級が異なるメンバーとの連携で意識したこと？

小隊長
消防司令
松吉 伸明

支援員の方たちとの連携を図り、楽しく、明るい環境での訓練を心がけました。若い隊員からの意見が自身の勉強になることもあるので、積極的に意見を出し合える雰囲気づくりです。

2 体調管理や気分転換はどのように取り入れていましたか？

訓練自体は楽しく思い通りに取り組めました。坐骨神経痛など肉體的なつらい部分はありましたが、事前訓練後にいく、プロ野球観戦を楽しみに頑張りました。



隊員
消防士長 久保翔太郎



隊員
消防士 辻本 春樹



機関員
消防士長 紙屋 孝生

1 最優秀署となった決め手は？

中隊としてのまとめ。
操法の組み立て。
あとは運でどうでしょうか。

2 この2ヶ月間はどんな2ヶ月でしたか？

タイムを縮めるために、消火訓練に真摯に向き合った、とても良い時間でした。

1 中継隊として譲れないこと意識していたことは？

指差確認呼称の徹底と、
大切をしないこと。
動きのキレ。

2 練成会の経験を今後どのように活かしたいですか？

技術は自分の糧となること、努力は報われること、を訓練を通じて後輩に伝えていくこと。

1 また、出場する機会があれば、出場したいですか？

2回、3回と最優秀となった先輩方のように、私自身も、もう一度この喜びを味わいたいので、出場したいです。

2 この2ヶ月間で自身の一番成長した部分は？

メンタル面と技術面です。

共に学び 共に成長



皆さん、内外部を問わず様々な研修を受講されるかと思いますが、研修で得た知識を自分だけのものにしているのがもったいないと感じたことはありませんか？

このコーナーは、研修受講者が研修の良かった点や他の人に伝えたいと感じたことを紹介し、皆さんと共有するコーナーです。共に学び共に成長しましょう！

第3回 専科教育「救助科(第89期)」(総務省消防庁消防大学校)



大正消防署 特別救助隊
消防司令補 石井一希

令和6年8月21日に総務省消防庁消防大学校に入校し、52日間の専科教育「救助科(第89期)」を受講しました。ここでは、私が消防大学校で学び経験したことの一部を共有するとともに、消防大学校の魅力をお伝えできればと思います。

はじめに

消防大学校「救助科」

消防大学校救助科は、救助業務に関する高度な知識及び技術を専門的に学ぶとともに、教育指導者としての資質を向上させることを目的としています。講義74時間、訓練・演習144時間という研修カリキュラムのうち、校外研修が5回あり、効果測定は6回行われました。

救助科第89期では、全国の消防機関から派遣された救助隊の隊長、副隊長クラス48名(最年長45歳、最年少29歳)が集結し、

敷地内の寮で集団生活を送りました。寮室には談話スペースと個室があり、お互いの親睦を深めながら、休息や学習も十分にできる空間が確保されています。



消防学校恒例の記念撮影



6名1室のメゾネットタイプで、談話室もあります。

安全文化の醸成

救助科には、安全管理に関するものとして「安全管理理論」や「安全管理技術」の習得を目的とするカリキュラムが多くありました。その中でも特に印象に残っているのは、「安全文化の醸成」をより活性化させることを目的とする、2つの校外研修(視察研修)でした。

当局でも、「安全文化の醸成」を重点目標に掲げて取り組んでいますが、東京消防庁の職員一人ひとりの安全に対する意識の高さは当局以上であると感じました。安全を最優先する組織風土への転換を、各人が今以上に強く目指していく必要があると考えさせられた貴重な経験でした。

学生企画総合訓練

研修カリキュラムの集大成として実施されるのが、「学生企画総合訓練」です。この訓練では企画立案、計画及び要領の策定、訓練の実施、訓練の評価など、全てを学生が行います。訓練を実施する2日間は、全国各地の消防局、消防本部の特別高度救助隊が教育支援隊として招かれ、訓練の様子は全国の消防関係機関の中継放送されます。

この大がかりな訓練を運営するにあたり、消防学校入校直後から約40日間かけて運営事務を行いました。その内容は、当局では本部(消防局)が担当しているような事務的なもので、私自身初めての経験ばかりでした。大規模な訓練を開催するための仕事は幅広く、細部にわたる調整が必要でした。本部職員の苦労や努力だけでなく、充実感や達成感を味わうことができたこの訓練は、私にとって貴重な経験の一つとなりました。

全国レスキューネットワーク(顔の見える関係)の構築

消防大学校のなによりの「魅力」は、全国に多くの消防同志ができることがあります。共に学んだ同期生は、切磋琢磨しあわせを高め合える仲間であるとともに、時間外や休日の付き合いを通して親睦を深めながら、気付くと家族のような存在になっていました。卒業後も各本部の課題や取組などの共有が絶えることなく続いている。消防大学校で得たこの絆は、今後の消防人生において大きな力になると感じています。



おわりに

最後に、大阪市消防局の代表として貴重な学びの機会を与えていたいたことに感謝申し上げます。この経験を活かし、引き続き自身の知識・技術を高めるとともに、広い視野を持って部下指導や様々な課題に取り組み、当局の発展に貢献できるよう尽力致します。



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター



